

竹とんぼ

第57号



日本郷土玩具の会

和歌山県太地 クジラ尽くしの旅

松浦信也

●熊野古道巡り

今年（二〇二四年）四月、妻に友人Kさんから熊野古道への誘いがあった。私も参加することになり、せっかく和歌山県に行くなら鯨の町・太地にも行きたいと希望を出し、暑い夏場を避けて行くことに決定した。

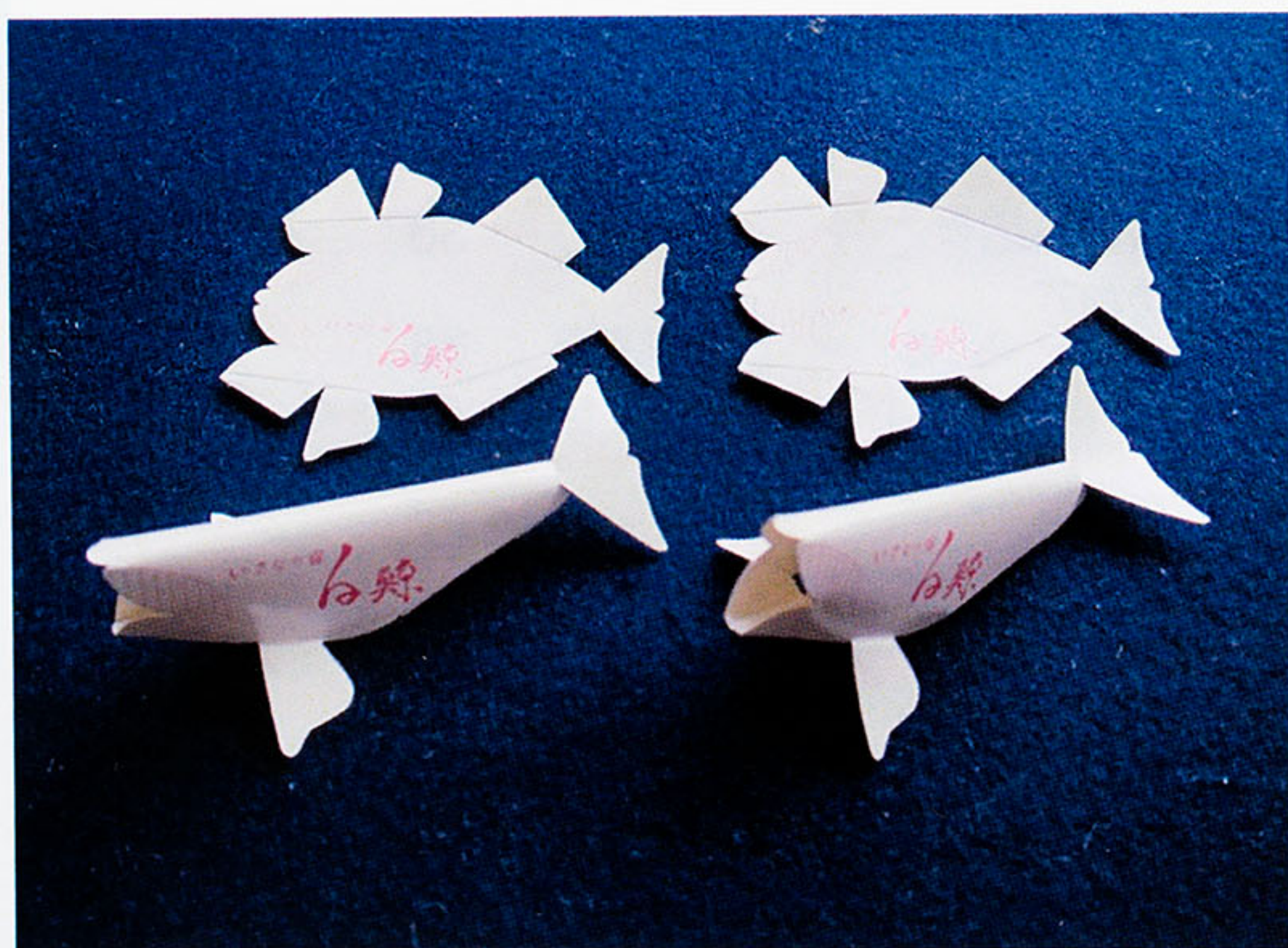
九月三十日早朝、羽田発日本航空で紀伊白浜空港着。バスを乗り継ぎ、古道の出発地・発心門王子へ。いよいよ歩き始める。路線バスも古道も外国人グループばかり。この熊野古道はスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路と並び、ユネスコの世界遺産として有名なのだ。歩くこと約二時間、熊野本宮大

社参拝。バスにて、宿「湯の峯荘」へ。

十月一日、バスで道の駅熊野川へ。

十時出航の熊野川下りの川船に乗り込む。スペイン女性五人組もいるので、ガイドの女性語り部さんが日本語・英語で名解説をしてくれる。ガイドさんの篠笛披露や高さ約5mを超す岸壁に目と頭部が浮き上がるイルカ岩などを見物しながら、約一時間半の川下りを楽しむ。歩いて熊野速玉大社に向かい、参拝。昼食後、バスにて大門坂へ。また約一時間半の歩きである。熊野那智大社参拝。その後有名な那智の滝を見物し、バスでJR那智勝浦駅へ。タクシーで太地の宿「いさなの宿・白鯨」へ。夕食は鯨フルコース。最高にうまい

尾の身ほか各部位の刺身、カラ揚げ、鍋まで堪能。食器を下げにきた若い係の女性に鯨料理と紙製のかわいい



クジラ箸置きをほめると奥に戻り、未完成のクジラ箸置きを追加プレゼントしてくれた。

●太地貸し自転車巡り

二日、宿の貸し自転車で出発。町の解体場であった太地浜を望む飛鳥神社に着く。参拝し、掛かっていた子供たちが奉納したクジラ絵の絵馬を眺め、正月の祭礼を偲ぶ。

毎年一月十三日の「お弓祭り」は、セミクジラの木製模型三頭を的に付け、神主さんが矢を放つと同時に的のセミクジラを奪い合う神事で、このセミクジラを獲得すれば大漁に恵まれ、的の破損は厄除け



「工房つじ」のクジラたち。



『海の狩人』と祭礼のセミクジラ。

になるとのことで地元漁師さんらの激しい争奪戦が展開される。私はこの祭礼にぜひ立ち合いたいと思っていたが、残念ながらまだ実現していない。その代わり、この祭礼を紹介した樋口英夫写真・文『海の狩人』（平河出版社・一九九二年刊）を何度も読み、参加気分を味わっている。

太地の鯨玩具製作所「工房つじ」の辻正浩さんがこのセミクジラの木製ミニ玩具を造っていたが高齢となり、十年ほど前に廃業。その際、祭礼のセミクジラを数頭持っていた辻さんから一頭を譲ってもらったので、今はこの祭礼セミクジラは私のクジラコレクションの一番のお気に入りである。

クジラ・イルカ肉が売られている漁協スーパーを過ぎ、白い鳥居が見えてくる。恵比須神社だ。この鳥居、何とクジラのアゴ骨。井原西鶴が「日本永代蔵・天狗は家名の風車」に泰地たいちを紹介、このクジラ骨鳥居を「高さ三丈（約九m）ばかり」と描写しているが、も



恵比須神社のクジラ骨の鳥居を背景に。

もちろん現在の鳥居は江戸時代のものではなく、二〇一九年に再建立されたイワシクジラのアゴ骨製。

岬の突端に向かう。上り坂になり、電動アシストに切り替えるが途中の急坂では足が痛くなり、自転車を押して最先端の燈明崎に着く。晴天下、太平洋が群青に波打つ。この沖合にクジラを発見した岬の番人が狼煙を上げ、それを合図に多数のクジラ船がクジラを追い込み、大きな網を掛け、鉾で突き取る勇壮な捕鯨が展開された江戸時代の一大パノラマが思



「抱壺庵」のクジラたち。

い浮かぶ。

帰りは岬の東側を回り、もう一か所の狼煙場所・梶取崎に着く。ここには鉾を撃つクジラ船がセミクジラを囲むシーンの大きな壁画があり、近くにコンクリート製の巨大セミクジラ像の供養碑も建つ。そんなモニュメントを見ながら走り、平地の

交差点に出ると鯨郷土玩具店「抱壺庵」に着く。玄関の看板や扉にはご主人・小出勝彦さんのクジラ陶板作品が泳ぐ。工房に入ると、陶板、土鈴、風鈴、お香立てなど様々な陶器作品が隙間なく並んでいる。以前ここで商品を買集め、速乾性の絵の具での絵付け体験も楽しんだことがあるが、今回は時間がなく、絵付けは見送り。クジラ絵の盃を購入後、出口横の作業所・窯場も見学させてもらい、道の駅への道順を聞いてから出発した。

◎道の駅からくじらの博物館へ

道の駅たいじは最近できた施設。入口前に青いポストがあり、上に乗るイルカの像が目を引く。こうしたクジラ像が乗るポストと鯨の絵がデザインされたマンホールの蓋が町内に数か所あり、最近では若いクジラファンの間でこれらを巡るクジラ探



しが人気。道の駅売店では「抱壺庵」の作品や地元の物産、食品が売られており、妻とKさんは梅干しなど和歌山県のお土産を購入。フードコートで昼食とし、私は鯨カツバーガーを味わった。

バス道を北上。ザトウクジラ親子の巨大像、クジラ尾のモニュメント、陸揚げされた捕鯨船などを横目に見ながら走り、最後の目的地くじらの博物館に着く。副館長・学芸員の中江環さんの案内で、一時からのイルカショーを見学。子供連れの家族など

四十〜五十人の見学者とともに、イルカのジャンプに拍手を送る。続いて海を利用した飼育プールに行き、イルカへの餌あげを体験。手にしたバケツ内の魚がわかるようにイルカたちが寄ってきて、優しい目で見つめてくる。癒しの時間だ。

博物館本館に移る。世界有数のク

ジラの博物館で、何と言っても圧巻は一階中央吹き抜けに吊るされた実物大のセミクジラと美しいクジラ船の古式捕鯨再現のジオラマ

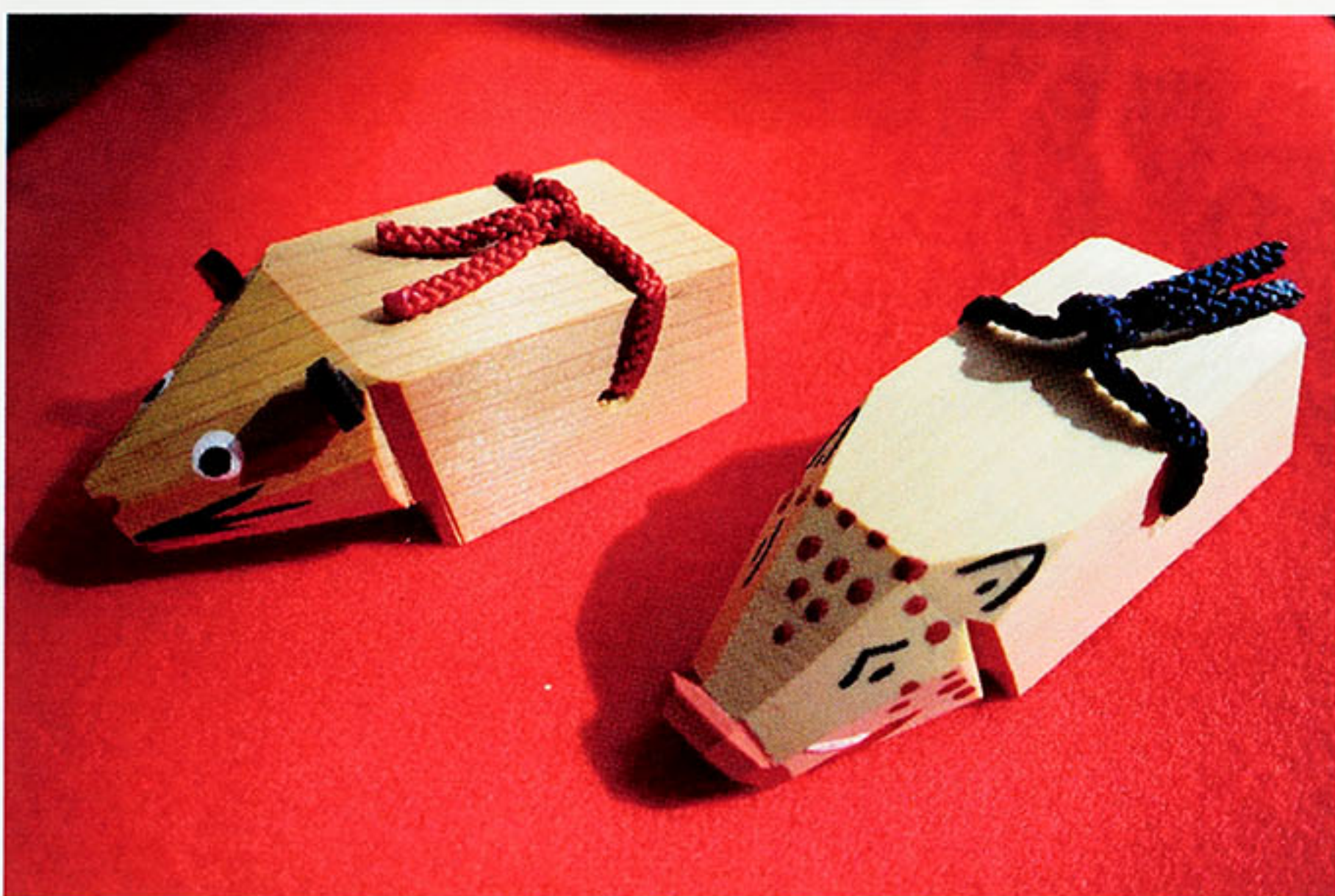


だ。何度見ても、その迫力に圧倒される。美しく彩色されたクジラ船の1/10の模型、古式から近代までの捕鯨用具、クジラ絵画、クジラヒゲの工芸品などすべての展示を見、じっくり解説も読んでいたところだが、四時前にKさんが一足早く、太地を去るので、宿に戻る。夕食は中江さ





「小倉家」のクジラ船の数々。



熊野十二支の子と亥。

んの招待で那智勝浦に出向き、地元
海の幸のうまい和食店で会食・懇談、
クジラ話に花を咲かせた。

◎那智勝浦・小倉家

三日、JR太地駅に向かい、駅前
のセミクジラ像ポストや玄関上のク
ジラ絵ステンドグラス、構内のクジ
ラ絵壁画などを楽しみ、那智勝浦駅

の古式クジラ舟などの郷土玩具の
展示を鑑賞し、絵付け体験もした思
い出の店だが、今でも鳳凰や菊模様
の彩色美しいクジラ船は人気の商品
だ。

へ。駅前商店
街すぐの郷土
玩具・物産店
「小倉家」を

近況を交わし、店内でお土産を探
すと、ガラスケース内に木製「熊野
十二支」が並んでいる。地元熊野工
房製で「もう廃業し、在庫のみ」と
のこと。幸い、私の干支・亥と妻の
干支・子が残っていたので、迷わず
購入。さらに、那智黒石製の超ミニ
硯と墨のセットを見つけ、いいお土
産を手に出る。

十九年ぶりに
再訪。外国人
観光客をもて
なしていた女
性主人・山本
勢津さんが元
気に出迎えて
くれる。昔、
二階でくま

早めの昼食を済ませ、駅に戻ると、
予定の名古屋行特急が集中豪雨のた
め、キャンセル。仕方なく、串本、
白浜を回る反対周りのJRで新大阪
駅へ。お陰で、構内で大阪名物の串
揚げを食べることができた。新幹線
内では太地クジラ尽くしの旅のデジ
カメラ写真を振り返りながら、無事帰
京した。
(東京都在住)